

第 10 回日中韓三カ国環境大臣会合 共同コミュニケ（概要・仮訳）

4. 化学物質管理に係る情報交換の進展を歓迎。化学物質の分類・表示(GHS)、PRTRに係る協力等、更なる取組みの継続を勧告。国際的な化学物質管理の動向(QSAR、SAICM)への対応に関する情報共有の必要性についての検討に合意。
6. バーゼル条約に係る協力の強化で合意。有害廃棄物、特に電子電気機器廃棄物(e-waste)の不法な越境移動の防止に向けて、対話と協力の継続で一致。E-waste管理に関する情報交換及びキャパシティビルディングに係る協力強化で合意。
7. 広域大気汚染について、EANET の活動推進の必要性を確認。本年 11 月の EANET 政府間会合の成果を評価し、大気汚染に係る地域協力の重要性を認識。光化学オキシダントに係る更なる研究協力に合意。
8. 北西太平洋行動計画(NOWPAP)の枠組みでの海洋ゴミに係る共同作業を評価。一層の連携の重要性を認識。各国の対策・経験を共有し、一般への普及啓発活動を通じて海洋ゴミ防止に協力することで合意。海洋環境保全及び海洋保護地域(MPA)ネットワーク等の関連活動の重要性を認識。
9. 地域の水環境の保全と管理における協力の重要性を認識。アジア水環境パートナーシップ(WEPA)の活動を評価。
10. 3R・循環型社会に係る各国の取組の進展を歓迎。アジアにおける循環型社会構築に向けて、三カ国の協力強化で合意し、アジア 3R 推進フォーラムの開始を評価。
11. 低炭素社会構築について意見交換。気候変動の悪影響への懸念を表明。技術移転、低炭素経済・炭素市場等に係る合同研究等、共同活動の必要性を認識。コベネフィット・アプローチについて意見交換。共通だが差異のある責任の原則のもと、長期目標に係る共有されたビジョンについての合意の重要性を認識。COP14 における確固とした緊急な行動、COP15 における次期枠組みに係る意欲的・効果的・包括的な合意に向けて作業することの必要性を強調。
12. 2010 年生物多様性目標を達成するための努力継続を確認。斉藤大臣より生物多様性条約 COP10 の成功のために中国・韓国の支援を要請し、協力を再確認。
13. 三カ国共同プロジェクトについて、
 - ・ 黄砂について共同研究の実施を歓迎し、更なる取組の強化の必要性で一致。
 - ・ 三カ国環境教育ネットワーク（及びアジア環境大学院ネットワーク）の重要性を認識。斉藤大臣より、環境保護活動をしている三カ国の学生団体の会議を来年日本で開催することを提案し、他の大臣たちは共感を示した。
 - ・ エコラベルに関する取組等、本年 11 月の環境産業円卓会議の成果を評価。